2011 年 GNC モンゴルエコツアー（9 月 10 日～9 月 17 日）報告

Ⅰ　スケジュール

9 月 10 日 （土）	飛行機 ツォゴ	11 時半：成田空港集合・13 時半：成田空港発 502 便 18 時半（17 時半）：ウランバートル着 スタッフミーティング　（ツォゴさん宅　泊）
9 月 11 日 （日）	専用車 ナスカ ノヨ	＜バヤンチャンドマン村＞ 8 時半：出発 10 時：歓迎式典、村内視察、村長と会食、苗畑視察、植林地視察（～16 時半）　（ツォゴさん宅　泊）
9 月 12 日 （月）	専用車 ノヨ	＜セレンゲ県植林地視察＞ 8時半出発：　2004 年植林地　　万博植林地 2010 年植林地　　苗畑候補地　視察 （スフバートルのホテル泊）
9 月 13 日 （火）	専用車 ノヨ	＜セレンゲよりウランバートルへ移動＞ 途中、バヤンチャンドマン村視察　（ツォゴさん宅　泊）
9 月 14 日 （水）	専用車 ノヨ	＜モンゴル国立大学エコロジー教育センター＞ 9 時：出発： 9 時半：面会、10 時：エコ教室 ・　GNCメンバー＆活動紹介 ・　意見交換・質疑応答（5 校） ・　植物園見学・記念植樹 14 時半：食事・買い物　（ツォゴさん宅　泊）
9 月 15 日 （木）	専用車 ノヨ	＜18 学校訪問＞ ＜新モンゴル高校訪問＞ ＜ナスカさん宅訪問＞　（ツォゴさん宅　泊）
9 月 16 日 （金）	専用車 ノヨ	＜ナスカさん実家訪問＞ ＜ナサンさん実家訪問＞ 16 時：スタッフミーティング（ツォゴさん宅） 18 時：夕食会　（ツォゴさん宅　泊）
9 月 17 日 （土）	飛行機	6 時 55 分：ウランバートル発 501 便 13 時：成田空港着・解散

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

Ⅱ　活動報告

1　バヤンチャンドマン村視察

【日時】
2011 年 9 月 11 日 10:00～16:30
【場所】
トゥブ県バヤンチャンドマン村
【参加スタッフ】
GNC Japan 代表　宮木いっぺい
GNC Japan 事務局長　矢野明子
GNC Mongolia 代表　ナスカ
GNC Mongolia 事務局長　ノヨ
GNC Mongolia バヤンチャンドマン村担当スタッフ　ゾリゴ
GNC Mongolia バヤンチャンドマン村担当スタッフ　ツエーンネ

1）緑化モデル村プロジェクト

・歓迎式典（10:00～10:30）
バヤンチャンドマン村緑化モデル村プロジェクトに GNC が貢献していることに対して、バヤンチャンドマン村の村長バヤルニムヒさんから感謝状をいただく。当プロジェクトに参加し、木の植樹や管理に協力している地元のモンゴル国立科学技術専門学校の学生たちが多数集まり、歌や馬頭琴の演奏で歓迎してくれた。偶然、モンゴル国（バットボルトさん）とブルガリアの国会議員が視察に訪れ、交流する機会を得た。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

・村内視察（10:30～12:30、13:30～14:00）
当プロジェクトに参加している村民の自宅を訪ね、お話しを伺う。1 年に 10 世帯ずつ（今年で 2 年目）参加しており、GNC Mongolia が事前に講習会を開きじっくり指導しているため、村民たちの当プロジェクトの理念・目的に対する理解度はきわめて高い。また、現地に常駐している担当スタッフのアフターケアも行き届いており、村民から慕われ高い共感を得ていることが素晴らしい。村民に良かった点と苦労する点を聴いたところ、良かった点は、①住環境が良くなった、②実がなることがうれしい、③他の村民から羨ましがられるとのことであった。また、苦労する点は、①水遣りが面倒（実際、自宅から離れたところにある井戸から重いタンクに水を入れて運ぶのが重労働）、②専門知識が少ないとのことであった。現段階では、水遣りの手間が少ない比較的井戸に近い世帯を選んでプロジェクトに参加してもらっているが、今後この問題は解決する必要がある。また専門知識については常駐スタッフによるきめ細かい指導によって解決しつつある。ガンボルドさん、サラントヤさん。バッツィンギルヒさん（女）、ナッツクドルチさん（男）、バータムハンさん（女）、ドルチュゴトさん（女）。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

・村長、モデル村プロジェクトスタッフとの会食（12:30～13:30）
村役場で、村長、プロジェクトスタッフ（ニルグさん、バトさん、ムフさん）と今後のプロジェクトの具体的な進め方について話し合った。また、経済と環境が両立した、村民が自分たちの村を誇りに思えるような村づくりを目指す、他の地域のモデルとなることで、同様のプロジェクトが全国に広がることに資するという基本理念・目的を共有した。村長は、「7 月に日本を訪れてきれいな町を見たとき、わが村をゴミの無いきれいな村にしたいと強く思いました。ゴミのリサイクルについても勉強したい」と語った。「道の駅」構想についても意見交換を行った。その後、ヤギの肉と馬乳酒とアルヒ（モンゴルウォッカ）をふるまっていただき、楽しい時間を過ごした。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

２）苗畑プロジェクト

・苗畑視察（14:00～15:00）

ツァガンさん、ゾリゴさんが泊まり込みで、苗畑の管理を行っている。ビニールハウス内外の苗畑の状態は良好であるが、まだビジネスにつなげる段階にはきていない。苗のマーケティングや販路開拓等、マネジメントを強化してゆくことが求められる。

居住施設の環境は以前に比べ格段にレベルアップしているが、まだまだ、2 人の頑張りに頼る部分が大きく、今後の安定性、継続性を考えるならば、各段のレベルアップが必要である。とりわけ、来年以降、フィールドスタディツアーの重要拠点とする構想もあること

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

から、諸々の施設の整備が急務であろう。

３）植林プロジェクト

・植林地視察（15:30～16:30）

　バヤンチャンドマン村郊外の植林地を視察した。活着率が良い列もあれば、極端に低い列もある。土壌その他の環境の問題というより、植樹作業を担当した者の植え方の差によると推察される。植える前の技術指導が重要であろう。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

２　セレンゲ県植林地視察

【日時】
2011 年 9 月 12 日～9 月 13 日
【場所】
セレンゲ県スフバートル郊外トジンナスル等
【参加スタッフ】
GNC Japan 代表　宮木いっぺい
GNC Japan 事務局長　矢野明子
GNC Mongolia 事務局長　ノヨ

森林動物センター長のジャムスランさんの案内で、これまででもっとも活着率の良い 2004 年植林地、および家畜の問題等の多い万博植林地、2010 年植林地、そして今後の苗畑候補地を視察した。2004 年植林地は、GNC が最初に本格的な植林を行った場所であり、順調に成長したアカマツの姿を目の当たりにすると感慨深いものがあった。全体が小さいながらも「森」と呼べるような状態にまでなっていた。一方、万博植林地が今後も細やかなケアが必要なことは間違いない。今後どのような方針で対してゆくか課題である。2010 年植林地も順調に活着していた。今後は具体的な火災対策を講じてゆく必要があるだろう。苗畑候補地はスフバートルの中心街に比較的近い場所だった。

３　エコ教室実施

【日時】
2011 年 9 月 14 日 10:00～13:30
【場所】
モンゴル国立大学エコロジー教育センター

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

【参加スタッフ】
GNC Japan 代表　宮木いっぺい
GNC Japan 事務局長　矢野明子
GNC Mongolia 事務局長　ノヨ

モンゴル国立大学エコロジー教育センターのセンター長やスタッフ（初対面は、バットゥチュルンさん、シンジドゥマさん）と今後の共同事業について相談するミーティングを終えた後、エコ教室の会場に移動。今年は、108 学校、23 学校、新モンゴル高校、エコロジー教育センター付属高校の生徒たち約 60 人が参加した。

GNC としては、これまでの講演会方式のエコ教室に限界を感じており、日本でのスタッフミーティングでワークショップ方式への変更を決定し準備を進めてきた。

まず、学校ごとにわかれてテーブルを囲むように座ってもらった。その後、自己紹介と GNC 活動紹介を終えた後、全員の自己紹介を行った。その際、名前をメモしそれにあわせて写真撮影も行った。全員の名前と顔を後で確認するためである。その後、4 問の共通の質問を投げかけ、2 人一組で 5 分間自由に話し合ってもらい、紙に意見を書いてもらう。その上で各校の代表者を決めてもらい、全体の中で発表してもらう。それをもとに、全体で意見交換行う。そのファシリテーション役に GNC スタッフは徹した。

質問項目は１）モンゴル人のいいところ、悪いところ日本人のいいところ、悪いところは？２）モンゴルのいいところ、悪いところ、日本のいいところ、悪いところは？３）夢をもっていますか？それを実現する上で何が足りないですか？４）将来、モンゴルをどのような国にしたいですか？といったものである。その場で臨機応変に変更する予定だったので、多数の質問項目を用意していたが、今回はこの 4 問となった。結果、驚くほど活発でかつ面白い意見が飛び交い生徒たちの笑顔があふれ想いがあふれ、時間がたつのを忘れるほどだった。実際、終了後に記入してもらったアンケートには、「楽しかった」「時間がたつのを忘れた」「またやりたい」という声が多数だった。今回のワークショップ方式は初回としては大成功した。今後この方式の可能性を十分に検討し、より一層周到な準備をしたうえで来年に臨みたいと思う。フィールドスタディ構想の重要な核となることは間違いない。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

4　18 学校訪問

【日時】
2011 年 9 月 15 日 10:15～12:15
【場所】
18 学校
【参加スタッフ】
GNC Japan 代表　宮木いっぺい
GNC Japan 事務局長　矢野明子
GNC Mongolia 事務局長　ノヨ

就任 2 年の女性校長プレブジャルガルさんと初めて会う。18 学校は外国語教育に力を入れており、6 ヶ国語のコースがあり、その全体の統括をしている外国語部長のナランツェツェグさん、日本語教師のルギーさん、ソーダさんも同席。大変元気で前向きな校長先生で、札幌の学校で 2 年間働いていた経験から、日本の学校の良い点、様々なシステムを積極的に 18 学校に導入しつつある。以前訪れたときは汚かったトイレがびっくりするくらいきれいになっていた。18 学校を良い学校にしようという意欲とアイディアにあふれていた。

GNC と 18 学校の関係についてもすでに充分な情報を得た上で大いに感謝しており、今後の協力関係についてスムーズに話が進んだ。具体的には、エコ教室の継続・発展、校内緑化の継続について合意した。2000 年にはじめて GNC が 18 学校を訪れた際に植樹をした記念すべきポプラがすでに 3 階建ての校舎を越える高さまで成長しており、2005 年 6 月に橋幸夫とその後援会の方々と一緒に植えたポプラも大きく育っていた。来年からはキャンパスの周辺にニレの木を植樹することを検討し、その候補の場所も校長先生に案内してもらい確認した。

18 学校の 3 年生、7 年生、9 年生の子供たちが体育館で、歌や踊りを披露して歓迎してくれた。また 10 年生の日本語クラスの教室をたずね、GNC の紹介をし、絵本をプレゼントした。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.